

# ほっかいどう



北海道が わかる つながる かわる

— 年6回 奇数月にお届けします —



一穴をあけて保存できます

## 特集 子育てと学びの環境づくり

### 健やかな成長を、地域で応援！ 子どもの笑顔が輝く北海道を みんなの手でつくっていきましょう。

子どもたちの明るい笑い声や元気な姿は、地域の活力の源です。  
北海道に生まれ育った子どもたちの健やかな成長を応援するために、  
私たち一人ひとりにできることを考えてみませんか。



子どもたちが夢に向かって  
元気に成長できるよう、  
地域が一緒になって  
支えていきましょう。

北海道知事 育穂 けい子



#### 子どもたちの健全な成長は、 道民みんなの願いです。

地域で安心して子どもを生み育てられること、さらに、子どもが健やかに成長し、将来たくましい大人として自立することは、道民みんなの願いです。

また、希望に満ちた子どもたちの存在そのものが地域の活力であり、人づくりは、地域の発展に直結するテーマといえます。

次代を担う子どもたちの成長を支えるのは、大人の重要な役割。誕生から幼児期、青少年期を経て自立するまでには、心身の健全な発達を見守りつつ、大人たちが手本となって、社会の一員として生きていくために必要なことをしっかりと教えなければなりません。

しかし、核家族化や少子化などが進むにつれ、かつてのような「地域の子どもは地域のみで育てる」というコミュニティ意識は薄れつつあり、地域の子育てと学びの環境は大きく変化しています。

そこで道は、地域の「子育て力」や「教育力」を高め、地域全体で子どもたちの成長を支えるために「子育てと学びの環境づくり」に取り組んでいます。

こうした取り組みを進めるには、家庭や学校だけでなく、地域のさまざまな大人が子どもたちの暮らしに関わりながら、子育てや教育活動を支援するしくみが必要です。

地域の一人ひとりが関わることでできるしくみとは、具体的にどんなことでしょうか。



#### 地域で取り組む連携・協力のしくみで 子どもを取り巻く課題に挑戦。

道が進める「子育てと学びの環境づくり」では、子どもたちを取り巻くさまざまな課題について地域社会全体で取り組めるよう、連携・協力のしくみを重視しています。

例えば、子育てでは、生まれる前から青少年期までの保健・医療・福祉に関わる一貫した子育て支援を基本とし、市町村や企業、市民団体などと連携しながら、妊婦さんや子育て家庭、次代の親となる若年者への支援策を進めています。

また、教育面では、地域全体で子どもたちを守り育てる体制づくりとして、家庭教育・学校教育・社会教育の連携強化を図っています。地域の多様な大人たちがさまざまな面で子どもたちをサポートすることにより、確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育み、子どもたちの自立につながる「生きる力」を身につけさせることをねらいとしています。



#### 子どもたちを支える人の輪を、地域の絆に。

地域の大人が子どもたちの健全な育成のために積極的に働きかけることは、「見守ってくれている」という子どもの安心感を高めるだけでなく、地域の中での絆づくりにつながります。

また、そうした環境で育った子どもは、やがて大人になったときに、地域の子どもたちに対して同じような働きかけをすることでしょう。

子どもたちの成長を応援する温かな取り組みを地域の文化として根づかせていくことが、北海道の大きな活力につながるのです。

Q. 知ってる？  
このマーク



詳しくは中面左下に

特集

子育てと学びの環境づくり

誕生から自立まで、子どもの成長を支える地域の環境づくりを。

芽ばえた命を大切に育むために

●母になる人への贈り物の運動

道では、社会全体で出産や子育てを支えることのできる地域を目指し、少子化対策に取り組んでいます。その一つが「母になる人への贈り物の運動」です。

この運動では、毎月22日を「妊婦さんの日」と定め、妊婦さんへのちょっとした気配りの実践を道民の皆さんに呼びかけています。また、妊婦さん向けの教室や男性の育児参加を促す講座をこの日に開催を呼びかけるなど、普及啓発に取り組んでいます。

さらに、妊婦さんには、車用マタニティステッカーや妊婦さん応援DVDなどを配布。ホームページでは、妊婦さん対象のサロンの取り組みを紹介していますのでご覧ください。

母になる人への贈り物の運動



妊婦さん応援DVD「もつすく会えるね」

●北海道赤ちゃんのほっとステーション

道が登録を進めている「北海道赤ちゃんのほっとステーション」は、赤ちゃんやパパ、ママなどが安心して、おむつ替えや授乳に利用できる場所です。

市町村や企業などの協力を得て登録された施設は道内202カ所(平成25年7月末現在)で、子育て中の親子などが安心して外出できる環境づくりに役立っています。

登録施設などの詳しい情報は、ホームページをご覧ください。

北海道赤ちゃんのほっとステーション



登録施設はこのステッカーが目印

▶道庁子ども未来推進局 ☎(011)204-5235

赤ちゃん連れのパパとママが気軽に利用できる場に。

社内資格であるベビーアドバイザーとして、赤ちゃん用品に関する知識を活かし、日々の接客に当たっています。

売り場の一角にある「赤ちゃん休憩室」は、道内のイオン30店舗に設けられた「北海道赤ちゃんのほっとステーション」の一つ。店舗によって内容が異なりますが、当店ではベビーベッドと授乳室のほか、体重計・身長計などを備え、赤ちゃん連れのパパとママに気軽にご利用いただいています。

赤ちゃん用品メーカーなどと連携して行っている育児相談会や栄養相談会も好評で、赤ちゃんに関する情報交換や交流の場として地域のお役に立てばと願っています。



イオン札幌発売店の「赤ちゃん休憩室」

イオン北海道 イオン札幌発売店

ベビーアドバイザー 大浦 はるみさん

赤ちゃんのほっとステーション

赤ちゃん用品メーカーなどと連携して行っている育児相談会や栄養相談会も好評で、赤ちゃんに関する情報交換や交流の場として地域のお役に立てばと願っています。

イオン札幌発売店の「赤ちゃん休憩室」

道が進める「子育てと学びの環境づくり」に関する取り組みの代表例と、地域での連携のしくみを活かした事例をご紹介します。

子育てをしやすい地域づくりのために

●地域の子育て支援拠点

「子育て支援センター」や「つどいの広場」などの地域子育て支援拠点は、子育て中の親子が気軽に利用できる場として、保育所や公共施設など、地域の身近な場所に設けられています。

子どもの日常的な遊び場として、あるいは親子同士の情報交換や交流の場として利用できるほか、育児相談や子育て講座などに参加して、子どもの発達に応じた親の関わり方を学ぶこともできます。詳しくは、市町村の子育て支援担当窓口にお尋ねください。

▶道庁子ども未来推進局 ☎(011)204-5236

子育ての喜びを共有する 仲間の輪を広げよう。



歌や絵本を楽しむ交流のひとつ

旭川市子育て支援センター「はれっと」支援センター長 中山 美知子さん

ことし6月にオープンした「はれっと」は、市内8カ所目の子育て支援センターです。乳幼児を持つお母さんは家で過ごす時間が長い分、迷いや不安を感じやすいもの。ベビーマッサージ講座や絵本の読み聞かせなどをきっかけに支援センターを定期的に利用すると、子どもも親も社会性を刺激されるよう、「わが子の成長ぶりがよくわかる」「友だちができて子育てが楽しくなった」などの声も聞かれます。

私たち職員が人と人をつなぐ橋渡しをすることで、子育ての喜びを共有する仲間の輪がもっと広がってほしいと思います。

●毎月19日は「道民育児の日」

親子のふれあいやコミュニケーションの時間を大事にし、家族の絆を強めることは、子どもたちが健やかに成長していくためにも大切です。「北海道すきやき隊」(ページ左参照)では、子育てをしやすい社会環境づくりへの取り組みを北海道全体に広げていくために、毎月19日を「道民育児の日」として定め、その推進に取り組んでいます。この日には、職場でも定時に退勤できるような雰囲気づくりなどのご協力をお願いします。

健やかで豊かな成長を支えるために

●放課後児童クラブ

道内に900カ所以上ある放課後児童クラブは、放課後や週末などに地域の子どもたちが安心して過ごせる場所。学童保育や学童クラブとも呼ばれています。保護者が仕事などで家庭にいない場合、おおむね10歳未満の子どもの遊びや生活の場として、小学校の余裕教室や児童館などに設けられています。

中でも、中標津町が進める取り組みでは、単に放課後を過ごす場所としてだけでなく、子どもたちと地域の大人が活発に交流する拠点として児童館が重要な役割を果たし、地域の絆づくりに役立っています。

▶道庁子ども未来推進局 ☎(011)204-5236

地域との日常的なふれあいが、子どもたちの生きる力に。



中標津町西児童館 放課後児童指導員 大久保 さくらさん

中標津町の放課後児童クラブは、子育て支援拠点である町内5つの児童館にあり、単独ではなく児童館と一体化した活動によって、子どもたちと地域の皆さんとの日常的なふれあいを生み出しているのが特長です。例えば、趣味・特技を指導する「チャイルドアドバイザー」や児童館での菜園づくりと一緒に楽しむ「たがやし隊」の活動では、地域の大人が暮らしの知恵や技術を子どもたちに伝えてくれます。また、そうして育った子どもたちが「今度は自分も」と、中・高校生のボランティアとして活動を支えてくれています。

家庭でも学校でもない居場所だからこそできる自由な体験を通して、子どもたちの生きる力を地域全体で育てていきたいと思っています。



なわとび競技を楽しむ子どもたち



親子として、大人として子どもを守り育てる力を「親子」といいます。いま、この力を発揮して、地域のみならず家庭での子育てを支援していくことが大切です。今年度から2年間、「HUG&KUMU」親子つむぎキャンペーンを実施します。コミュニティサイトによる情報

●ほっかいどう「学力・体力向上運動」

全国調査の結果から、北海道の現状として「子どもたちに基礎学力が十分に身につけていない」「一日の家庭学習の時間が少ない」「『全国学力・運動能力・運動習慣等調査』の結果は依然として全国平均と比べて低い状況が続いている」などの課題が浮き彫りになっています。

そこで道は、子どもたちに将来自立して生きていくうえで必要な学力や体力を確実に身につけさせるために、家庭や学校と連携しながら「ほっかいどう「学力・体力向上運動」」に取り組んでいます。

特に小・中学生の保護者の皆さんには、家庭での学習習慣につながる「チャレンジテスト」と、生活習慣を親子で見直す「生活リズムチェックシート」の活用をお勧めしています。下記のホームページからダウンロードしてお使いください。

▶道教育委員会 学力 ☎(011)204-5771 体力 ☎(011)204-5752 生活習慣 ☎(011)204-5744

地域での学習支援を通じて 子どもたちの学ぶ意欲を高めたい。

名古屋で小学校教員を務め、定年退職後にUターン。羊農家を営む一方、4年前から町内の小学校で週3回、学習支援(ティームティーチング)のボランティアをしています。

私の役割は、授業中の先生のサポート役として、個別指導をすることです。子どもたちと一緒に考えながら、ほめたり励ましたりして、やる気を起こさせるように努めています。

「しっかりとした学力を身につけさせたい」という願いを学校や地域の皆さんと共有し、学習意欲を高められるよう努力したいと思っています。



厚岸町学校支援地域本部 学校支援地域ボランティア 山田 忠男さん



小学校での学習支援の様子

発信や、道内出身のバンドによるキャンペーンソングなどによって、家庭や地域の絆づくりを進め、北海道全体で明るく子どもたちを育む機運を高めていきます。皆さんも、この機会に「親子つむぎ」や「子育て」について、一緒に考えてみませんか?

親子つむぎ

お知らせ! 赤れんが

道からのお知らせです。お問い合わせは ▶マークの窓口、またはホームページへ。

農業大学の学生募集

2年間の実践的研修教育で農業者を養成 次代の農業者を養成する北海道立農業大学校(本別町)が、平成26年度の学生を募集します。

●畜産経営学科・畑作園芸経営学科 (合計60名)

●縮作経営専攻コース(10名)

Table with columns: 推薦入校, 一般入校, 願書受付, 入校試験, 受験資格

●農業経営研究科(10名)

Table with columns: 推薦入校, 一般入校, 願書受付, 入校試験, 受験資格

詳しくはホームページをご覧ください。か、お問い合わせください。

北海道立農業大学校 ☎(0156)24-2122 ▶道庁農業経営課 ☎(011)204-5385

「千島桜」は北方領土返還要求運動のシンボルの花です

ことし、日露平和条約交渉が再スタートして、北方領土返還に向けた期待が高まっています。

道は、このタイミングをとらえ、返還要求運動のシンボルの花「千島桜」を用い、全国に向けて北海道発の機運醸成の取り組みを展開しています。

千島桜をデザインしたピンバッジ、シールなどを使い、道内の企業・団体、市町村などへ働きかけるとともに、皆さんに関心を持ってもらえるよう、インターネットなどを使って情報発信を強化していきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

▶道庁北方領土対策本部 ☎(011)204-5069



千島桜をデザインしたマーク

TPP(環太平洋パートナーシップ)協定について

TPPは、農林水産業だけではなく、本道経済や道民生活のさまざまな分野に大きな影響を及ぼすことが懸念される問題です。

道では、TPPに関する国からの情報や懸念される影響、道・関係団体の取り組みなどについて、ホームページで情報を提供していますのでご覧ください。

▶道庁政策局 ☎(011)204-5106

秋の全国交通安全運動

9月21日(土)～30日(月)

秋は日が沈むのが早くなり、夕暮れ時は人や車が見えづらくなります。交差点での安全確認をしっかり行うとともに、車はライトを早めに点灯し、歩行者は夜光反射材を身に付けて、みんなど交通事故を防止しましょう。

▶道庁道民生活課 ☎(011)204-5219 ▶道警本部交通企画課 ☎(011)251-0110(内線5062)

秋はヒグマに注意!

9月7日(土)～10月31日(木)は 秋のヒグマ注意特別期間

キノコ採りなどで野山に入ることが多いこれからの季節には、ヒグマによる人身被害が多く発生しています。あなたが被害にあわないために、野山に入るときは次のことを守りましょう。

- 事前に市町村役場などで出没情報を確認する。 ●野山には絶対に一人では入らない。 ●声や音を出しながら歩く。 ●ヒグマのフンや足跡を見たら、すぐに引き返す。 ●朝夕などの薄暗いときには行動しない。 ●ゴミや残飯は必ず持ち帰る。

▶道庁生物多様性保全課 ☎(011)204-5205

北海道食品機能性表示制度

健康価値を備えた加工食品を認定

道では、道内で製造された加工食品に含まれる機能性成分について、「健康でいられる体づくりに関する科学的な研究」が行われた事実を認定・表示する制度をスタートさせました。

認定商品のパッケージには認定内容とマークが表示されていますので、ぜひご注目ください。

▶道庁食関連産業室 ☎(011)204-5226



北海道認定 愛称「ヘルシード」

●三岸好太郎美術館 生誕110年 三岸好太郎展



生誕110年、現在の美術館建物が建てて30年の節目に、代表作「海と射光」をはじめ各地に愛蔵される作品が集結します。この機会にぜひご覧ください。

「雲の上を飛ぶ鷹」(1934年、東京国立近代美術館蔵) ●期 間/9月14日(土)～11月17日(日) ●休 日/月曜日(祝日の場合は開館) ●時 間/9時30分～17時(入場は16時30分まで) ●観 覧 料/一般600円、高校・大学生350円、小・中学生250円 ●道立三岸好太郎美術館 ☎(011)644-8901

耳より! 総合振興局 & 振興局

道内各地の話題をお届けします。



買物公園などにおいしさが大集結

空知総合振興局

「北の恵み 食べマルシェ」開催。

旭川市の中心市街地で、年に一度の食のイベントを開催します。旭川ご当地グルメの屋台やナイトマルシェなど、話題のおいしさが満載です。どうぞお越しください。

また、旭川駅舎の構内や駅前広場では加工食品などの展示販売会「駅マルシェ」も開催します。詳しくはお問い合わせください。

期間 9月14日(土)～16日(月・祝) ▶北の恵み 食べマルシェ ☎(0166)73-9840 ▶商工労働観光課 食・観光戦略室 ☎(0166)46-5320

空知総合振興局 ワイン

▶そらちワイン振興室 ☎(0126)20-0147

釧路総合振興局

「釧路の旅にこの一冊、ぐる得パスポート」。

釧路地域の食や観光、エリアマップなど情報満載、お得なクーポンも付いた「くしろ観光ガイドブック ぐる得パスポート」。釧路管内のJR駅・道の駅、札幌圏の主要観光案内所などで配布しています。ぜひご利用ください。

▶くしろ圏観光キャンペーン推進協議会(釧路観光連盟) ☎(0154)41-2111 ▶商工労働観光課 ☎(0154)43-9184

上川総合振興局

「北の恵み 食べマルシェ」開催。

旭川市の中心市街地で、年に一度の食のイベントを開催します。旭川ご当地グルメの屋台やナイトマルシェなど、話題のおいしさが満載です。どうぞお越しください。

また、旭川駅舎の構内や駅前広場では加工食品などの展示販売会「駅マルシェ」も開催します。詳しくはお問い合わせください。

期間 9月14日(土)～16日(月・祝) ▶北の恵み 食べマルシェ ☎(0166)73-9840 ▶商工労働観光課 食・観光戦略室 ☎(0166)46-5320

空知総合振興局

「北の恵み 食べマルシェ」開催。

旭川市の中心市街地で、年に一度の食のイベントを開催します。旭川ご当地グルメの屋台やナイトマルシェなど、話題のおいしさが満載です。どうぞお越しください。

また、旭川駅舎の構内や駅前広場では加工食品などの展示販売会「駅マルシェ」も開催します。詳しくはお問い合わせください。

期間 9月14日(土)～16日(月・祝) ▶北の恵み 食べマルシェ ☎(0166)73-9840 ▶商工労働観光課 食・観光戦略室 ☎(0166)46-5320

空知総合振興局 ワイン

▶そらちワイン振興室 ☎(0126)20-0147

釧路総合振興局

「釧路の旅にこの一冊、ぐる得パスポート」。

釧路地域の食や観光、エリアマップなど情報満載、お得なクーポンも付いた「くしろ観光ガイドブック ぐる得パスポート」。釧路管内のJR駅・道の駅、札幌圏の主要観光案内所などで配布しています。ぜひご利用ください。

▶くしろ圏観光キャンペーン推進協議会(釧路観光連盟) ☎(0154)41-2111 ▶商工労働観光課 ☎(0154)43-9184

報告します! 道議会

北海道議会の概要をお知らせします。

平成25年第2回定例会 (6/18～7/5)

議長に加藤礼一議員(自民)、副議長に木村峰行議員(民主)を選出しました。知事から予算案3、条例案13、負担金その他の案3、人事案3、報告案13の合計35件の議案が提出され、議決が必要な25件については、すべて原案どおり議決されました。また、意見案10件が可決されました。

可決された意見案の主な内容

- 防衛計画大綱の見直しに際し、道内の陸上自衛隊削減など北の守りを軽視する見直しとならないよう要望 ●在沖縄米軍による矢野別演習場外への砲撃誤射事故に関し、再発防止の徹底とその後の米軍の対応について地元理解を得ることなどを要望 ●国の地方公務員給与の削減要請に伴い実施した地方交付税削減の完全復元のほか地方財政の充実・強化対策などを求める

- 原子力事故からの道内避難者が困難を抱えて生活しており、「原子力事故子ども・被災者支援法」に基づく施策の早期具体化や予算措置などを要望 ●裁判官、検察官が常駐しない裁判所・検察庁支部の解消など、法曹養成制度の抜本的な見直しを求める

～ホームページをご覧ください～ 道議会ホームページでは、本会議の審議概要や会議録など、さまざまな情報をご覧いただけます。

次定例会のお知らせ 平成25年第3回定例会は、9月10日(火)開会予定です。日程などの最新情報は、ホームページなどでご確認ください。

▶道庁政策局 ☎(011)204-5691



# つながる・ひろがる物語

温泉編

5つの団体が協力して、駒ヶ岳が見える流山温泉を防災力をつけるコミュニティーの場に。

温泉や雪氷を利用して真冬にマンゴーを出荷。十勝に新しい希望をつくる人たち。

## 十勝産真冬のマンゴー【音更町】

温泉 × 農業

温泉を活用した真冬の農業や地域の人々の絆を深める活動など、新たな取り組みをご紹介します。

温泉 × 防災

## ななえ大沼ひとまちづくり協議体【七飯町】

マンゴーの一大産地宮崎県では、出荷シーズンは5、6月。その常識を覆そうと、造園家や建設・設備業、元石油販売業など異業種に携わる十勝の経済人がノラワークスジャパンを設立。夏は土壌やハウス内を雪氷で冷却し、秋から春は温泉熱などの自然エネルギーを活用して12月の収穫に成功しました。平成22年、10本の苗木から試験栽培を始め、翌年には60人を集めて試食会を開催。昨年12月には約100個のマンゴーを収穫しました。苗木を240本に増やし、ことしは本格的な出荷が見込まれています。



初めて12月に収穫された十勝産マンゴー

観光客や別荘滞在者と地域住民がつながり、噴火や地震などの災害に備えるコミュニティーづくりのために、行政、町内会、企業、大学研究機関、NPOが連携して平成23年に発足した「ななえ大沼ひとまちづくり協議体」。自然環境に恵まれた流山温泉を観光施設だけでなく、一時避難所や地域の人が気軽に交流できる場所として位置づけ、福島県の子どもたちを受け入れたり、「まさか！のときの生き残り塾」や「かあさんの炊き出し青空食堂」など、身を守る体験プログラムを企画しています。



空き缶でご飯を炊く防災イベント

### 栽培技術を広め、十勝にマンゴー生産者を増やしたい。



㈱ノラワークスジャパン 代表取締役 中川 裕之さん

「真っ赤なマンゴーをクリスマスに出荷したい」と、宮崎の生産者が語った夢がきっかけ。農業の経験も資金もなかったけれど、十勝の温泉熱を利用して魚を養殖していた方と出会って話は急展開。試食会で十勝産と宮崎産とブラジル産を並べたら、75%の方に十勝産がおいしいと選ばれました。糖度17～22度と非常に甘く、食感も滑らか。全国のパイヤーからも注目され、来春には鹿追町でもパイオマスを利用した栽培がスタートします。

▶お問い合わせ ㈱ノラワークスジャパン ☎090-3117-1400(携帯)

### 楽しく遊びながら、生きのびる技や自然を活かす知恵を学んでほしい。



ななえ大沼ひとまちづくり協議体 事務局 高橋 諭子さん

東日本大震災発生年に立ち上げた協議体。災害時に行政だけでは住民から観光客までの状況を把握することはできないという危機感から、誰もが集まりやすい温泉を拠点に、さまざまな視点で防災を考え始めました。火のおこし方をはじめ、食品を保存する技術、エコの知恵など、専門家や被災体験者、地域の人々から楽しく学べるように工夫しています。防災イベントをきっかけに、参加者の興味が少しずつ広がっているのを感じます。

▶お問い合わせ ななえ大沼ひとまちづくり協議体 事務局 ☎(0138)67-1726

## すくすく北のキッズ

地域の子どもがすこやかに育つよう、がんばっている活動を紹介。地元の海に、成長したマツカワがたくさん戻ってきますように。小学生によるマツカワ稚魚の放流。えりも町

漁業資源の回復を図るため、北海道栽培漁業えりもセンターが設置された平成18年から、えりも岬小学校ではカレイ科の高級魚で知られるマツカワの稚魚17,000匹を毎年放流しています。手のひらに入る大きさの稚魚を見て「これがあんな大きな魚になるの？」と驚く児童たち。前浜での海浜学習は「食べることは命をいただくこと」を実感し、自分たちが暮らすまちの産業を支える栽培漁業の大切さを学ぶ場でもあります。

▶お問い合わせ えりも町産業振興課 ☎(01466) 2-4624



「帰ってきてね」と稚魚を放流する児童たち

## おいしい北海道プレゼント!

ホクレンの北海道米「ゆめぴりか」(平成25年産 新米、5kg)をプレゼント! ほどよい粘りと豊かな甘み、つややかで美しい炊きあがりです。抽選で50名様

●当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。



## クイズに答えて道産品を当てよう!

次のクイズにお答えください。広報紙「ほっかいどう」は、今回で通巻何号でしょうか?ヒントは表紙右上にあります。

①100号 ②200号 ③300号

●応募方法:クイズの解答、住所、氏名、年齢、電話番号、本紙への意見・感想を記入の上、ハガキ、パソコンまたは携帯サイトでご応募ください。

●応募先  
ハガキ 〒060-8588 北海道広報広聴課 「おいしい北海道プレゼント!」係  
パソコン 広報紙「ほっかいどう」 検索  
携帯サイト

●応募期限:9月27日(金)必着

応募いただいた方の個人情報は、当プレゼントの発送以外には使用いたしません。

北海道の人口	総人口	男	女
平成25年6月末	5,451,739人	2,580,427人	2,871,312人
前年同月比	27,950減	15,003減	12,947減

※人口は年4回公表される統計資料に基づき直近のデータを掲載しています。

●掲載記事の関連ページ、広報紙アンケート結果、広報紙のバックナンバーなどの閲覧は下記からアクセスできます。

広報紙「ほっかいどう」 検索

次号のお知らせ  
11月号は11月6日(水)から配布予定です。

この印刷物は環境に優しい植物性インキと古紙配合率70%再生紙を使用しています。本文には見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

お知らせ 道政広報テレビ番組【ウィークリー赤れんが】毎週日曜日(UHB 6:55～、HBC 16:55～)どうぞご覧ください。 ※放送日時は変更の場合あり

広告

※この広告は、広告主の責任において北海道が掲載しているものです。